



書道特別展

小坂奇石と川村驥山

— 「線の行者・奇石」と「酒仙・驥山」の書 —



観覧料 常設展もご覧いただけます

一般 510円(400円)

高校・大学生 350円(280円)

小・中学生 250円(200円)

* ()内は20名以上の団体料金。

小・中・高校生は、土・日・祝日・長期休業中は無料です。高齢者(65歳以上)と各障害者手帳をお持ちの方は半額です。

主催 徳島県立文学書道館

特別協力 驥山館

後援 徳島県教育委員会 徳島新聞社

NHK徳島放送局 四国放送



第16回徳島県民文化祭共催事業

右作品：小坂奇石「寒山詩」より(当館蔵)

左作品：川村驥山「醉古堂剣掃語」より(驥山館蔵)

2014年

10/4土~11/12水

休館日 10/6・14・20・27、11/4・10

開館時間 9：30~17：00

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町 2 丁目 22-1

電話 088-625-7485 FAX 088-625-7540

URL <http://www.bungakushodo.jp>

関連事業 11月9日(日)

講演会 13：00~13：50

講師 川村龍洲氏(驥山館館長)

演題 「奇石と驥山の奇縁」

展示解説 14：10~15：00

講師 江口大象氏(璞社会長)

講師 川村龍洲氏(驥山館館長)

* 講演会は申し込みが必要です。

往復ハガキに、「小坂奇石と川村驥山講演会希望」・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号をご記入の上、郵送してください。

当館1階受付でも申し込みます。

* 展示解説の申し込みは不要ですが観覧券が必要です。

酒仙—驥山



小坂奇石は生前「書家は、線の行者としての苦行を怠ってはならない」と語ったことがあります。学書の第一を線の鍛錬とし、また線に書の本質を求め見出しました。それゆえに、奇石の書・線は人々を惹きつけ魅了するのです。その奇石が尊敬し、私淑した書家に川村驥山がいました。

驥山は、酒をこよなく愛し、酔余の狂草作品（極端に崩した連綿草書）が世に知られます。一方、それとは対照的な楷書作品「酔古堂劍掃語」によって書家として初めて日本芸術院賞を受賞しました。

このたびの特別展では、当館が所蔵する〈線の行者〉奇石の書、そして長野市の驥山館、長野県信濃美術館、長野県内の皆様のご協力により「酒仙」驥山の書を展覧いたします。異彩を放つ巨匠二人の書を、この機会にぜひご鑑賞ください。

線の行者—奇石



5 川村驥山 蘭亭序（六曲屏風の第一扇）長野県信濃美術館蔵
6 川村驥山 隸書対聯 驥山館蔵
7 川村驥山 飲中八仙歌 驥山館蔵

1 小坂奇石 清虚
2 小坂奇石 雲中白鶴
3 小坂奇石 寒山詩
4 小坂奇石 寒山詩

川村 驥山 かむら きざん

1882(明治15)～1969(昭和44)
静岡県袋井市生まれ。名は慎一郎。3歳より父・東江に書や漢学を学び、7歳で太田竹城の書塾に入門。昭和7年に東方書道会を設立した。現代書道二十人展には第1回より出品し、昭和26年書家として初めて日本芸術院賞を受賞した。



小坂 奇石 こさか きせき

1901(明治34)～1991(平成3)
徳島県美波町生まれ。名は光太郎。16歳で黒木栞石に師事し、昭和30年に璞社を創設した。現代書道二十人展には第1回より出品し、昭和45年に日展文部大臣賞、昭和56年には日本芸術院恩賜賞・芸術院賞を受賞した。

交通アクセス（JR徳島駅から）

徒歩 約15分
JR 徳島駅西側のポッポ街を抜け右折します。踏切と助任川を渡り、3つめの信号交差点を右折し約300m。徳島中学校東隣。

バス
〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車し「吉野本町2丁目」下車、徒歩約5分。
〔徳島バス〕2番乗り場「前川経由」に乗車し「吉野本町2丁目」下車、徒歩約5分。

タクシー・自動車 約5分

国道192号線、藍場町交差点を北進、助任川を渡り4つめの信号を右折し約300m。
当館北側に駐車場があります(43台・大型バス2台)。

展示のお知らせ

- 2014 12/6～12/14
書道企画展 徳島県高校生 第4回 書道席書創作コンクール展
- 2014 12/14～12/27
書道企画展「今年の一字」展 2014
- 2015 2/15～3/22
書道特別展 中林梧竹「癒しのかすれ」展
- 書道企画展 回顧・とくしまの書
—戦後徳島を舞台に活動した書人たち—

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1
電話 088-625-7485 FAX 088-625-7540
URL <http://www.bungakushodo.jp>

